

第 488 回 番 組 審 議 会

1. 日 時 2013 年 7 月 16 日 (火) 午後 1 時 30 分～
2. 開催場所 テレビ岩手 6 階大会議室
3. 委員総数 12 名

出席委員 10 名

委 員 長	坂本 修
委 員	池田 克典
委 員	吉江 信博
委 員	鈴木 正之
委 員	平 英一
委 員	遠藤 雅也
委 員	國分 正人
委 員	千葉 隆史
委 員	嶋 誠治
委 員	五日市知香

欠席委員 2 名

副 委 員 長	柴田 和子
委 員	村川 健一

社 側 出 席 者	檜崎 憲二 (代表取締役社長)
	山口 英二 (常務取締役)
	青山 尚之 (取締役報道制作局長)
	菅野 智 (営業局長)
	熊谷 慎也 (報道制作局次長)
	菊池 健 (報道制作局報道部副部長)

事 務 局	遠藤 隆 (編成技術局長)
	平井 直子 (編成技術局編成部副部長)

1. 議 題

1. 2013年6月29日(土) 10:00~10:30 放送
「健康大百科 第29回 子どもの心のケア」
2. その他

2. 意 見

委員側意見

- 全体の番組認証、静かな穏やかな幹事で番組が進んでいた。健康大百科、疾患もだが新しい岩手医大の施設紹介がわかりやすく説明されていた。社会補償費の問題もあるが採算を度外視しても治療している様子が紹介されたのは意義がある。
- 説明しにくいテーマだったと思った。プライバシーに配慮して顔を出さないで紹介していた。支えるスタッフの気配りや心配りが感じられた。医師や作業療法士など様々な人の役割を紹介してほしかった。
- 学校にはスクールカウンセラーがいる。教育と医療が連携する。そういう全県的な取り組みを紹介してほしかった。子供の相談だけではなく親のダメージもいやす。子供を見ると同時に親を見ることも意義がある。そういうコメントもほしかった。
- 番組全体としてアナウンス全体の声が聞き取りにくかった。誰が受診できるのか、どうやれば受診できるのか初めの方で紹介してほしかった。
- 電子音が繰り返し流されていたが違和感があった。
- 今回の番組は子供を持つ親にとっては参考になった。ケアセンターは力強い存在である。テレビで取り上げることで子供を持つ親に周知された。釜石、宮古、大船渡にも施設があり安心できる。クエートからの義捐金がベースとなっていることもわかった。一般の人はこんな時に電話して利用してほしい、こんな症例、具体的な症例が知りたかった。
- ある事業の紹介としては良かった。しかしセンターの設置目的やそれ自体が内包している問題。被災地の子供のためにといいながら全県的な拠点だという。しかし被災地の子供が内陸の矢巾にきて診療は受けにくい。
- 震災以外でも心のケアが必要な子供もいると思う。震災で今はどういう状態なのか知りたかった。プライバシーの問題もあって難しいと思うが、そういうところを知りたかった。
- 心に傷を持った子供にとってはすばらしい取り組みを知ることができた良い番組だった。国とか県の予算がどう使われているかわかりにくい中でよかった。冒頭のセレモニーが長かった。またレポーターの服が黒いのが気になった。死を連想してしまう。
- 震災から2年半がたって番組を通じて施設によって安心感を与える。白衣を着ないでカラフルな服装。気配りが行き届いている。

局側の回答

- 日々ニュースの中で心のケアは難しい問題だが、子供とケアの部分、配慮して子供の取材はできなかったが施設の紹介に終始した。子供の心の状況、時系列触れた関係でどういう人が利用できるのかなどのご意見を参考にしたい。マイクの話ですが、普段はケーブルがついたマイクを使っているが施設の関係で、無線のマイクが不調だった。異音がでて放送に使用できなかったため、先生のマイクの音を使って聞きにくいところがあった。ご指摘いただいた教育と医療の連携などニュースでも長期的に扱っていきたい。